

# 実践事例

## 1 実践の概要

### (1) 取り組みのねらい

体験活動や集会活動をとおして豊かな心をはぐくみ、いじめを生まない人間関係づくりを推進する。

### (2) 取り組みの内容

#### ① 体験活動実践例

本校では、望ましい集団づくりのため、体験活動を行う際に学年の枠を取り払い、縦割りのグループ「なかよし班」を作り1年間を通し活動している。

教育課程に位置づけている活動は、生活科と総合的な学習の時間を中心に、クリーンアップ、サツマイモ栽培、銀杏拾いなどを行っている。



[クリーンアップ]



[サツマイモ収穫]



[銀杏拾い]

#### ② 集会活動の実践例

全校集会の校長講話で、物語を題材にした人間の優しさや思いやりの心についての話や童謡の詩の内容から自分を見つめさせ、友達のことを理解する話などいじめ防止に関連する話をしている。さらに、全校集会での校長講話の内容を学校だよりに掲載し家庭にも知らせている。

## 2 実践の成果

### ① 体験活動について

- ・ 上学年が下学年の面倒を見ながら活動をしている。また、下学年の児童は上学年の児童を頼りにするなど、活動に広がりが見られた。
- ・ 学校生活の中でも異学年の児童が混ざり合っただ遊ぶ姿も見られるようになってきたことから、学年の枠を越え、友達や仲間を理解しようという意識が芽生え始めていると考えられる。

### ② 集会活動について

- ・ 担任が日頃から児童同士の言葉遣いや行動に注意をはらい、いじめの早期発見に心掛けていたが、校長講話の中で一人一人の児童の心に響く話やいじめに対する強い姿勢を示したことで「いじめは絶対に許されない」という意識を持たせることができた。また、校長講話の内容を学校だよりに掲載し家庭に知らせることにより、家庭との連携も図ることができた。

## 3 取り組みの評価

本校では、現在、幸いにも問題になるいじめは確認されていないが、いつでも起こり得るといふこと念頭に置き教育活動に取り組んでいかなければならない。

本校の取り組みが、いじめ防止の一助にはなっていることは確かだが、児童個々が抱える悩み、不安などを解決するために、日常の児童の状態をしっかりと見取ることを継続していかなければならない。